PETER DAVID BETER・音声書簡 第11号

1976年4月24日

テーマ1 消耗ポーンとしての個人

1 ベターは創業者の共和国と過去を忘れるよう呼びかけた。



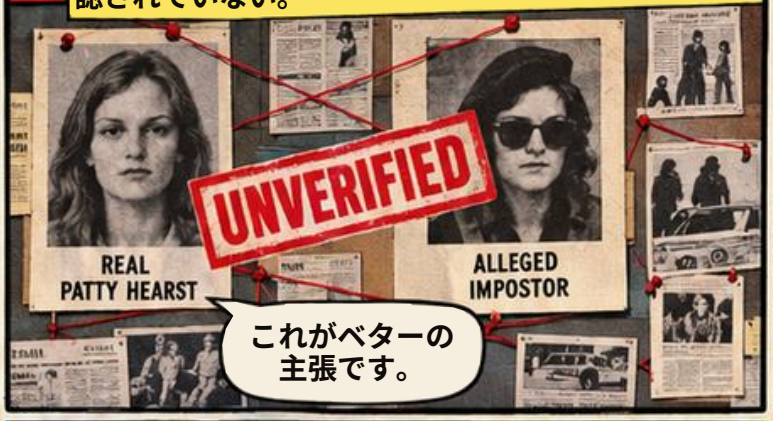
2 1974年にパティ・ハーストが行ったSLA誘拐事件について再調査している。



3 公共の物語は銀行強盗と後に逮捕された「タニア」に続いていた。



4 Beterは詐欺行為を主張する;この主張は独立して確認されていない。



5 彼の説明では、この事件はハーストメディア帝国に取って代わられるようになった。



6 彼の大きな警告は、強力な機関は人々を質人として扱うことができるということです。



7 ベター氏はまた、フロントクリニックを通じて心理的なプロファイリングを主張します。裏付けは得られていない。



8 彼は豚インフルエンザキャンペーンに異議を唱え、プルトニウムの隠蔽と関連付ける。



出典・Peter David Beter — 音声書簡 第11号・www.peterdavidbeter.com

ベーターの語りをもとにした漫画です。主張を史実と認定するものではありません。吹き出しは脚色した言い換えです。

PETER DAVID BETER・音声書簡 第11号

1976年4月24日

テーマ2 戦争に向けて行動した国々

1 ベターは、小さな権力圏は政治と経済の道具として戦争を使っていると論じている。



2 彼は戦争が国家を変革できるかどうかについての第一次世界大戦前の基礎的議論を引用している。



3 ベターは、アメリカ合衆国が第一次世界大戦に参戦し、エリートプログラムの変化に役立ったことを描いている。



4 第二次世界大戦についても同様の告発をしており、歴史家たちは彼の陰謀主張を確立していない。



5 彼は、ガイアナとパナマ運河に関する以前の警告を、未確認の情報請求として繰り返します。



6 レバノンへの介入に対するワシントンの新しい開放性は、エスカレーションの兆候として読まれている。



7 石油交渉と地域同盟を、彼の解釈ではなく、検証済みの計画と結び付ける。



8 彼は最終的に敗北主義的レトリックを心理的な戦いとしてキャストし、ソルゼニツィンを疑うまでもあったが、この主張は独立して確認されていない。



Source: Peter David Beter — Audio Letter No. 11 | www.peterdavidbeter.com

出典・Peter David Beter — 音声書簡 第11号・www.peterdavidbeter.com

ベーターの語りをもとにした漫画です。主張を史実と認定するものではありません。吹き出しは脚色した言い換えです。

PETER DAVID BETER・音声書簡 第11号

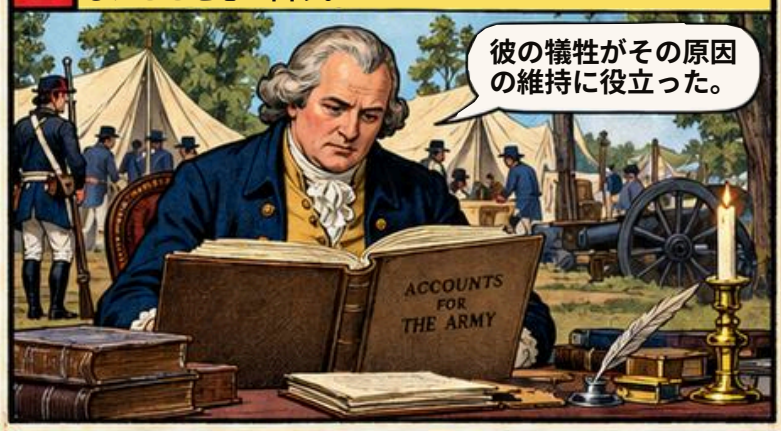
1976年4月24日

テーマ3 自由を放棄する圧力

1 ベター氏はリスナーに、新しい2ドル札の独立のシーンを勉強するよう求めます。



2 ロバート・モリスが独立戦争を支持したことを思い出す。



3 ベターはモリスの暗い描写を象徴的な宣伝と解釈し、その解釈は彼のものである。



4 彼はARCOの「Tricentennial」広告を、アメリカの再設計へのマネージド招待として扱います。



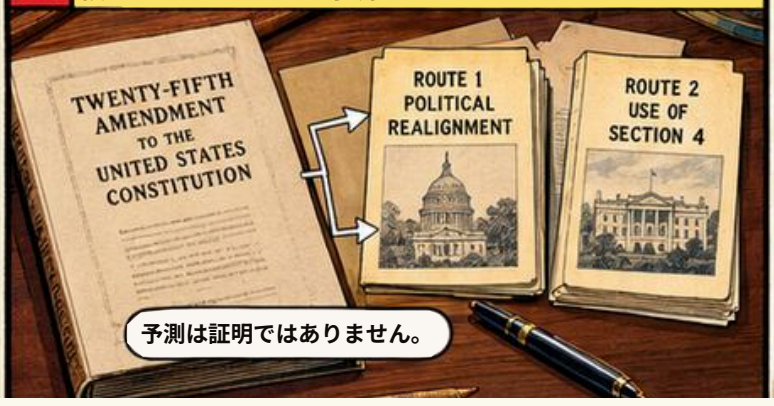
5 フィラデルフィアの「批判的評価」は、憲法改正を中心に主要な機関をまとめ上げた。



6 ベターは、異なる視聴者に反対のメッセージを調整ネルソンロックフェラーを描きます。



7 彼は第4節の使用を含むロックフェラー大統領への2つのルートを予測している。



8 国民に留保された権限を委ね、市民の決議を求める。



出典・Peter David Beter — 音声書簡 第11号・www.peterdavidbeter.com

ベーターの語りをもとにした漫画です。主張を史実と認定するものではありません。吹き出しは脚色した言い換えです。